

交付・閲覧席の指定・利用案内等の業務を行っていた。しかしその位置が適当でなく、また軽読書室の新設により、同室の利用さらに図書館全体が気安く利用され親しまれる図書館にするために、あえて廃止にふみきったものである。結果は利用者からたいへん好評をもって迎えられた。その他では利用者懇談会を開催して図書館運営について意見を求め、また写真展を随時開催して、潜在利用者の誘引を図ったことを特筆しておきたい。

(1) 利用者懇談会の開催

公共図書館の不振の根本的問題点として、図書館資料費の絶対的な不足が指摘されているが、乏しい図書館資料費とわずかな蔵書、それによる利用者の失望と地域社会の無関心、図書館資料費の増加を困難にしているという悪循環をなかなか断ち切れないでいる。また公共図書館といえば、学生・受験生のための勉強部屋、気楽にはいれない堅苦しさ、本を借りる手続きのめんどうくささといったイメージがいまだに住民の間に根強く残っていることも事実であり、図書館資料費の絶対的不足と相まって、二重に公共図書館の不振を招く原因ともなっている。図書館資料費の増額は、図書館側だけの努力には限界がある。わかりきったことではあるが、世論の支持が絶対条件である。そのためには、図書館資料費が少ない、人手が足りないとか敷くばかりでなく、少しでも世論の支持を得られるように、手近かなところでそれほど金はかけなくともやれるところからやってみようではないか。職員の気持が一つになって、館内模様替えとなって表われ、そこからまた利用者懇談会の発想が生まれた。

日頃図書館を利用してくださる利用者の中から21名の方に出席を依頼して、①館内模様替えについて②利用者の増加策について③図書館資料についての3つのテーマについて意見を交換した。

(2) 展示会等の開催

近代図書館では集会・展示のためのホールの施設を備えるのが常識で、随時各種催しものを主催して地域住民に公開している。そうしたことによって日頃図書館に足をはこぶことのないいわゆる潜在利用者の開拓を図っているわけであるが、本館ではそうした施設を持たないので催しものの開催は不可能である。しかし創意工夫により閲覧室の壁面等を利用し、コレクター、NHK等の協力を得て、ささやかではあるが開催することができた。観覧者の多くは常連的な図書館利用者であったが、初めて図書館を訪れたと見られる人達もかなり見受けられたので、それなりに効果はあったように思われる。

○資料展

福島県の詩人たち(処女詩集・創刊詩誌)	47年5月
日本と中国(本でみる日中関係史)	47年6月
沖縄県の誕生(本でみる沖縄)	47年7月
ふくしまの山	47年8月

○写真展

蒸気汽関車への挽歌	47年6月
高松塚古墳	47年7月
福島の野鳥	47年8月
平家物語とその時代	47年9月

3. 利用状況

館内模様替えによりかなりの増加が期待されたが、結果的には数字で見ると前年度の実績をわずかに上まわる程度に止まった。しかし参考図書コーナー、新聞雑誌コーナー、新設の軽読書室等は、利用票を廃止して自由閲覧制を採用したので、これらの利用は数字には表われてこない。それらの利用を含めると実際にはかなり増加しているものと考えられる。→〔表1〕

館内利用について、職業別に見ると、数字の面ではかなりの減少をしめしているが、これは前述したように閲覧制度の変更によるもので、単純に前年度と比較してみることはできない。学生・生徒の利用減は模様替えにより閲覧席が半減したことが原因と見られる。

館外利用の面では、やはり児童の伸びが注目される。児童の利用増加のすう勢は少しもおとろえず、ますます強まる傾向にあるが、本年度は前年比30%の伸びである。しかし貸出登録者は55%の伸びにもかかわらず、延利用人員の伸びが鈍化しているのは、もっぱら児童図書の不足に起因しているように思われる。

児童の利用増加と児童に対する図書館奉仕の重要性にかんがみ、児童図書の整備充実には、重点施策として取り組んでいるが、限られた図書館資料費の枠内で考慮せざるを得ないので、児童のおう盛な読書欲を満たすだけのじゅうぶんな量を供給することは極めて困難な状況にある。

4. 調査相談事務

調査相談事務は一般公開図書を主とした貸出事務と同居していたが、模様替えにより調査相談室として独立したので、機能的にもスッキリした形で事務が遂行できた。そして独立を機会に室内に県内同人誌・県関係行政資料・郷土資料の各コーナーを設け、また縮刷版も含めて主要日刊紙の2年分・特許公報の一部、その月のものだけだった月刊誌についてもバックナンバーを揃えるなど資料の大幅な公開を図った。また、これらの資料は一部を除いて利用票に記入しなければ閲覧することができなかったが、利用票を廃止して自由閲覧制を敷いた。

(1) 回答事務

郷土出身作家や江戸期に本県で支配した大名の経歴、あるいは労働団体・銀行・会社等の所在地の照会など、個人・団体に関することや、郷土史に関する調査依頼がもっとも多く、依頼件数の52%を占める。しかも県外からのものが大部分で、遠くは九州・中国地方などからの依頼も少なくない。依頼内容もとくに郷土史関係では、高度なものが多くなり、所蔵資料だけでは解決できず、郷土史家や他の図書館に再依頼して処理しなければならないものも多かった。→〔表4〕

(2) 複写サービス

利用件数は前年度605件に対して1391件という増加ぶりである。内容別に見ると新聞が2902枚から4484枚参考図書1811枚が4131枚とそれぞれ大きく伸びているのが注目される。新聞の場合は、記念誌や社史あるいは市町村史の編さん資料として、参考図書は学生が主で宿題解決のための利用が多い。職業別では、社会人が55%、学生45%で、図書館資料の利用の場合と異なり、社会人の利用が学生を上廻っている。複写業務は今後もますます増加の一途をたどるであろうことが予